

食事をいただく心と、作る時の心構えについては、既にお話致しました。

食事をいただくとは、他の命をいただく事ですので「いただきます」と言いましょ
うという事でした。

では、自らの命を長らえる為に他の命をいただくのは、果たしてそう簡単に『許さ
れる事』なのでしょうか？

仏教には『不殺生戒』という戒め、つまり『戒』があります。文字のままに訳
すと『生き物を殺さない戒め』という事になります。

しかし、私達人間がそれぞれたった一つの命を維持する為に、目に見えないバクテ
リアの様な命をどれだけ奪っているのかと考えると、今この瞬間もこの戒めを破っ
ているとも考えられるのです。しかし、仏教でいう戒め『戒』とはルールではなく、
自分の生き方を決めるお誓いなのです。

『不殺生戒』には、『生き物を殺さない』という他に『生き物を生かす』という
考え方も含まれているので、「命の無駄遣いをしない戒め」とも言えます。私達人間は、
食事に限らず、家に住み、服を着て、普段の生活の中でも、他の命をいただいて生き
ているのです。

更に、命の形を変えて作られた物を使っていたり、他の「命の力」を分けて貰った
物を使ったりしているのです。

これらの「命の力」を頂いて生かされている私達なのですから、逆に「命の力」を
他の人や物に分けてあげる生き方も必要なのではないのでしょうか？

それが仏教でいう『布施』の実践です。

『布施』とは「命の力を分け与える事」をいうのです。物を買って金銭を「支払っ
た」というような、出したお金の分だけ品物をいただくのではなく、『布施』は、限り
ある「命の力」を、限りなく分け与え合う行為なのです。

それが、仏教でいう、何にもとらわれない『布施』の尊い行為なのです。

そこで大切なのが、多くの「命の力」を頂く「食事」です。

その『布施』としての食事を頂く価値があるのか自分を顧みる事が大切なのです。